

## 11/8 感謝を込めて“かってに”表彰 TSURUTA LABO 1周年感謝祭

地域活性化支援センター「TSURUTA LABO」で、オープン1年を祝う「1周年感謝祭」を開催されました。

感謝祭には飲食や作家などが多数出店して賑わいを見せたほか、統廃合で閉校した小学校の記念品展示などが行われました。

また、同センターの関係者や利用者を対象にした「かってに感謝表彰会」が開催。岡代表から相川町長など町関係者が表彰されたほか、「冬期間体育館を一番利用してくれた」や「イベントスペース利用ナンバーワン」などユニークな感謝状が贈られました。



給食用のりんごを寄贈したみどりの会



岡代表（前列左から2番目）から感謝状が贈られました

## 11/21 地元生産者と給食味わう 「ふるさと产品給食の日」給食交流会

町内産のコメや野菜などをを使った給食を町の生産者と味わう「ふるさと产品給食の日」が鶴田小学校で開かれ、5年生の児童と生産者や学校関係者などが給食と一緒に味わいました。

この日は肉や野菜、果実など13種類の県産食材を使った給食が用意され、町内産のコメ「はれわたり」やシャインマスカット、5年生の児童が授業で育てた大根を使った「大根のそぼろ煮」などが提供されました。子どもたちは食材を提供した生産者などと味の感想を語り合いながら、特別な給食を味わっていました。

## 11/14 地元のりんご食べて農業に興味を みどりの会 給食用りんご寄贈

町の若手農業者でつくる「みどりの会」（木村竜也会長）は、小中学校の学校給食用にりんご40箱分（800kg）を町に寄贈しました。

同会によるりんごの寄贈は20年以上前から毎年行われています。木村会長は「子どもたちには会員が丹精込めて作ったりんごを味わってほしい。自分でも作ってみたいと興味を持ってくれたら嬉しい」と語っていました。

寄贈されたりんごは町小中学校の学校給食で、来年2月頃まで毎日提供されます。



特別な給食を楽しむ児童と学校関係者

## 地元おこし 協力隊通信

Vol.98 (筆:葛西 忍)

11月15日、16日、ふるさと鶴田会のご協力により、東京都内で鶴田町のりんごやぶどうなどの販売のお手伝いをして参りました。

「大粒、種なし、皮ごと食べられる」これが現在のぶどうのトレンドの特徴ですが、むしろこちらが主流のようでした。今回、スチューベンの生食の試食も行ったのですが、皮を剥く人、うまく実を吸い出せずによだれを垂れ流す人、消費者のぶどうの認識も体の使い方も大きく変化していると感じました。それでも食べてもらうと「甘くて、美味しい」というお声を多数いただきました。そのとき浮かんだのが「三方良し」の言葉。売り手よし、買い手よし、世間よしの3つの立場すべてが満足できる状態を目指す、近江商人の経営哲学。生産者として販売者として大事にしていきたい葛西果樹園の理念が確たるものになった2日間でした。



▲鶴田町の特産品を販売する葛西さんたち



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



食生活改善推進員の指導のもと調理する児童たち

## 毎月 19 日は「食育の日」

鶴田小学校 食育体験学習

町食生活改善推進員による食育推進事業が鶴田小学校で行われ、6年2組の児童たちが調理実習に取り組み、お弁当作りを体験しました。

この取り組みは小学校5・6年生を対象に、朝ごはん運動の一環として、食事を作り食べることの大切さを知つために20年以上前から行われています。

栄養教諭と推進員の指導のもと、児童たちは各班に分かれて主菜と副菜2種類を楽しく調理。出来上がった料理を持参したお弁当箱に詰め込み、自分たちで調理したお弁当をおいしそうに食べていました。

## 鶴田町食生活改善推進協議会「みつば会」

食生活改善推進員は、”私達の健康は私達の手で”をスローガンに、生涯における健康づくり活動を食を通して、地域において推進しているボランティア団体です。



小学校での食育活動、総合健診やいのちのまつりでの野菜たっぷり減塩料理の試食、テーマや対象者に合わせた調理実習等、子どもから高齢者までの食育を行っています。



減塩料理の試食提供

広報誌のレシピ掲載



小学校での食育活動



■子ども健康課 健康推進係  
☎0173-22-2111(内線132)

いのちのまつり参加



顕彰状と記念品が贈られたご夫婦

## 11/22 夫婦の絆 50 年の節目祝う 令和7年度鶴田町金婚式

町は「いい夫婦の日」に合わせて、結婚50周年を迎えた町内の夫婦をお祝いする金婚式を町国際交流会館で開催しました。式には対象夫婦57組のうち12組が出席しました。

式典では相川町長から出席したご夫婦に顕彰状と記念品が手渡されました。その後、出席者を代表して須郷恵さんまり子さん夫妻が「50年の歳月を夫婦二人三脚で歩んできた。周囲の方々からのご厚意に感謝し、これからも町政発展に尽力してまいります」とお礼の言葉を述べました。

## 地元おこし 協力隊通信

Vol.99 (筆:毛利精悟)

【今回は、鶴田町に今年立ち上がった活動集団『ミコプロ』について】  
《ミコプロとは》

『富士見湖パークプロジェクト』を略して『ミコプロ』と呼んでいます。

《どんな集まり?》

津軽富士見湖と富士見湖パークという鶴田町の宝を、さらに楽しくワクワクして活用できるようにと、町の有志が集まり活動している任意団体。

子どもたちが思いっきり遊んだり、家族で楽しめるイベントづくりに力を入れています。代表は町出身の元自衛官工藤宏匡(くどうひろまさ)氏。

《今年はどんな活動を?》

①真夏の水祭り『水ドン』を主催・運営

②秋祭りの飲食店ブースをプロデュース。ライトアップの設置手伝い。

ミコプロでは『富士見湖パークをより良くしたい』というメンバーを歓迎します。共に鶴田町とパークを盛り上げませんか?



▲毛利さん(左)と工藤さん(右)  
◀『水ドン』のようす



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の  
活動内容は、各種SNS  
でも確認することができます。